

断捨離と終活



札幌市医師会
札幌西円山病院／西円山敬樹園

むかい
向
ゆき
幸
え
恵

8年前夫を亡くし一人暮らしになりました。広い家には本をはじめ雑多な物が溢れかえっていました。2人とも本が好きで1週間に2回位は書店に行き全く傾向の違う本を買っていたのでたま一方でした。また残された医院をどうすべきかも大きな課題でした。医院を廃業した時は売れるのではと思いつつそのままに放置し内壁も崩れだし解体を決意しました。幸い良い業者に恵まれ平地になりました。

またまた幸運に恵まれ売らせてほしいという方が現れ医院跡地を含め先祖から譲り受け継いだ数か所の土地も売れ、住宅が建ち自宅のリフォームもお願いしました。

それから断捨離が始まりました。書斎の本は私はまだ読んでない20冊位を残し処分し納戸2つのももすべて処分、机、いす、本棚なども数個処分し20万ほどかかりました。

1999年よりコミュニティーホーム八雲で働いていましたが、2020年新春の20年勤続表彰を最後に辞める決心をしていました。娘が1人いて札幌のマンション暮らしですが、身内のいる札幌への移住を考え娘のマンションの他棟が売りに出されたら購入し、そうでない場合は賃貸で良いと思っていました。後任が決まるまでは最大10月までは勤務しようと思っていました。タイミングよくマンションの売り物が出て希望価格をすぐ了承してくれ即購入しリフォームもしました。幸い後任も決まり約50年ぶりに札幌へ戻ってきました。幸い西円山病院の医師として西円山敬樹園の嘱託医として週4回働くという仕事も決まり、最後の断捨離がはじまりました。洋服、バッグ、食器、タンス、本棚、ソファ、食卓テーブル、着物等差し上げたりしましたが処分が大変でした。マンションは3LDKですが1つ1つが狭いので慣れるのには随分かかりました。

ここ1、2年で体力の衰えが猛スピードで押し寄せてきているのを自覚できます。老化とはこういうものかと思いつつ、やれることを見つけ頼るところは頼り、老いを受け入れながら日々前向きに進もうと思えます。キッチンのリフォームもして料理も楽しみながらしています。私が毎日常下車する円山公園駅は新婚時代住んでいた住所のすぐ近くで、毎日乳母車で砂利道を円山公園まで散歩していた時代の面影は全くありません。8回目の年女は無理かな？と思いつつ、頑張りすぎずに日々を前向きに大事に生きることがわが務めと思えます。

どうせ拾った恋だもの



滝川市医師会
滝川市立病院

ひら
平
き
木
まさ
雅
ひさ
久

「幼児期健忘」という用語があります。一般に3歳以前に経験した出来事の記憶は残りにくいということが知られています。これは、海馬の発達が不十分なためと説明されています。

今年、年男で72歳になる自分の幼少期の記憶をたどってみました。霧の中にかすむように幼少時の記憶（会話の記憶、情景の記憶）がおぼろげに浮かび上がりますが、いつのことかは全く解りません。しかし時期が特定できる記憶が二つありました。

① 弟の誕生 2歳8ヵ月

私には2歳8ヵ月下の弟がいます。この誕生のことを覚えています。当時多かった助産婦（一般には産婆さんと言われていた）による自宅分娩でした。この時のただならぬ雰囲気と八畳の部屋と弟誕生が結びついて記憶として残っています。

② 天皇行幸 3歳8ヵ月

昭和29年8月11日、旭川への昭和天皇行幸がありました。この時、家族に連れられパレードを見ました。沿道を埋め尽くす群衆と熱気。圧倒的な非日常の中、人々を下から見上げる自分のイメージが記憶に残っています。

われわれが子供のころは、ラジオその他でいつも街に流行歌が流れていました。子供たちはいつのまにか、耳で歌詞を覚えたものでした。

③ 「お富さん」 発売3歳8ヵ月

昭和29年8月に発売されて、大ヒットした曲です（春日八郎）。発売は3歳8ヵ月時ですが、長く歌われていたので、後年覚えた可能性もあります。「粋な黒唄、見越しの松に」という部分を平木少年は粋な黒兵衛さんのお神輿かなんかを担いでいる歌と覚えました。

④ 「どうせ拾った恋だもの」 発売5歳11ヵ月

昭和31年11月に初代コロムビア・ローズが歌いヒットした曲です。「どうせ拾った恋だもの」の歌詞を純真無垢な平木少年は、当時どの家にもあった鯉のぼりを拾い、ズリズリ引きずりながら歩く様子をイメージして歌っていました。

さて、最近の記憶の話です。人名がなかなか出てこなくなりました。家庭では同年代の妻と、有名人の名前が出てこずに、「名前を出ないけどあの人さ」「あ一分かった、あの人ね」ということで何事もなかったかのように会話が進んでいきます。